

伊那谷研究団体協議会・第25回シンポジウム

飯田下伊那の文化遺産を彩る人びと

—知ってる人は知っている 熱き心の物語—

日時 令和5年2月4日（土）午後1時30分（開会）
会場 飯田市美術博物館 講堂 開場・受付 午後1時
主催 伊那谷研究団体協議会 後援 飯田市教育委員会

日程・次第

開会 13:30—13:45 司会進行:原 茂樹（事務局長） 10分

開会挨拶 伊那谷研究団体協議会副会長 松上 清志
主催者挨拶 伊那谷研究団体協議会 会長 中島 正韶
来賓祝辞 飯田市教育長 熊谷邦干加 氏

研究発表 13:45—15:15 90分

『後藤伊作が広めた大型屋台獅子』

柳田國男記念伊那民俗学研究所会員 橋都 正 氏

『今村清之助と鉄道—鉄道開業 150 年—』

みらい企画 律 代表 矢澤 律子 氏

『疾風迅雷—旧制飯田中学に現れた古生物学の泰斗 鹿間時夫』

飯田市美術博物館顧問 長谷川 善和 氏

全体会 15:25—15:55 30分

パネリスト 発表者 橋都 正 氏 矢澤 律子 氏 長谷川 善和 氏 発表順
コーディネーター 中島 正韶

閉会 15:55—16:00 加盟団体事業案内 閉会挨拶 副会長 松上 清志

コロナ感染防御のためマスク着用等をお願いします。発熱や咳等の方はご遠慮ください。
感染状況により、人数制限・時間短縮、及び開催を中止することもあります。

飯田市美術博物館・講堂

2023年2月4日（土）午後1時30分—4時00分

シンポジウムの趣旨

昨年(2020)の第24回シンポは「没後110年の春草に学び、その願いや思いにふれ学びあいたい」と企画しましたが、コロナ蔓延のため急遽中止となりました。しかし、お陰さまで、史誌『伊那』誌上シンポとして実施できました。今シンポでは、「彩る人びと」第2弾として、知っている人は知っている！偉大な3人を取り上げました。「歴史を学ぶことより、歴史づくりへの参加はより面白い」はインディラ・ガンジーの言葉ですが、まさに歴史をつくった彼らの逞しい生き様に学びながら、語り広め、次世代にも語り繋ぎたいとの願いからの企画です。

研究発表の要旨

『後藤伊作が広めた大型屋台獅子』

柳田國男記念伊那民俗学研究所会員 橋都 正 氏

後藤(旧姓福田)伊作は安政3年(1856)大島山村生まれ。数え15歳で青年衆の仲間入りし瑠璃寺の大型屋台獅子を習ったが、歌舞音曲に優れた才能を発揮。若くして瑠璃寺の獅子舞の総てをマスター。明治10年先輩二人と密かに牛牧に続いて山吹駒場へ大型屋台獅子を教えた。明治17年上殿岡後藤家へ婿養子して後藤姓となる。飯田市内や伊賀良村、鼎町方面へ次々と大型屋台獅子指導を請われ、地元屋台獅子の曲に獅子舞をアレンジして教えた。伊作は昭和9年(1934)一色の屋台獅子を教えたのが最後で昭和15年(1940)85歳で亡くなった。

『今村清之助と鉄道—鉄道開業150年—』

みらい企画 律 代表 矢澤 律子 氏

今村清之助(1849~1902)は、嘉永2年、出原村(高森町)に生まれた。家が貧しく16歳の時、お金を稼ぐため家出し、生糸貿易の中心港横浜で第一歩を踏み出す。20歳の時、武士の時代から明治に。清之助は、困窮した下級武士の生活費にあてた秩禄公債の売買に活路を見出し大金持ちになる。商いを通して株式の重要性を認識し、渋沢栄一と協力し「東京株式取引所」(東京証券)を設立。その後、陸奥宗光と欧米を視察した際、鉄道建設の意義を強く感じ、生涯をかけて全国70余の鉄道敷設に尽力し「鉄道王」と称された。54歳の生涯。

『疾風迅雷—旧制飯田中学に現れた古生物学の泰斗 鹿間時夫』

飯田市美術博物館顧問 長谷川 善和 氏

明治45年(1912)京都生まれ。昭和11年東北帝国大学卒業後、同大学で副手。17年より満州国新京工業大学教授。21年に帰国。22年7月より旧制飯田中学校の教諭となる。25年に横浜国立大学教授として転出するので、3年ほど飯田にいただけである。この間に南信の地質古生物の研究から氷河の研究まで行い、10篇ほどの論文と『伊那』に「下伊那地質誌の刊行を望む」を執筆。旧飯田中学は新制飯田高松高等学校に変わるが、最後の1年は学生に新風を吹き込む。何人もの生徒がその後専門家として育ち、学会や教育会に影響を与えた。まさに疾風迅雷で多くの足跡を残した。昭和53年(1978)逝去、享年66歳。

伊那谷研究団体協議会ウェブサイト:<http://inadani-kenkyo.com> 伊那谷研究団体協議会で検索可
お問合せ・連絡先 事務局 長 原 茂樹 0265(35)2386